



下末吉だより

—下小70周年 未来に繋ごう 下小のバトン—

令和5年1月31日

2月号

横浜市立下末吉小学校

未来に繋ごう下小のバトン

教務主任 宮木幸子 児童支援専任 一杉幸佑

今回は、教務主任の宮木と、児童支援専任の一杉の対談形式で、私たちが赴任5年間で感じる子どもたちの様子をお伝えさせていただきます。

宮木 私たちが下末吉小学校に赴任してからもう5年が経ちますが、下小の子どもたちの成長を年々感じますね。

一杉 この学校の子どもたちは、自分から進んで活動を創り出して熱心に活動に取り組みますよね。「自主性」と「創造力」がありますね。最近、私がよく耳にするのが子どもたちの「これこうしたい。」「これやってみたい。」という言葉です。子どもたちが思いや願いをもって学習や活動に取り組んでいることが分かります。

宮木 委員会活動では、特に6年生のそういう姿をよく見ますね。6年生は、毎回の活動の内容を事前に担当の先生と打ち合わせをして準備し臨んでいますし、終わった後もクラスでふり返りをして次の活動に生かそうとしています。さすが6年生！頼りになります！

一杉 子どもたちが取り組んでいるたてわり活動も素晴らしいですよ。全校人数は少ないですが、子どもたちは「お互いに顔が分かっているからなかよし！」と、それを下小のよさとして捉えていますね。

宮木 たてわり委員会が企画している集会も盛り上がっていますよね。この間の「かりものリレー」もペア学年で借り物を探したり、応援したりしている子どもたちの姿には、見ているこちらもほのぼのしました。まさに、なかよし！

一杉 大きな行事で言えば、11月の「下小 70th アニバーサリー」の子どもたちの頑張りは見事でした。高学年の子どもたちが中心になって内容を考えたり、各クラスや委員会とも協力したりしながら取り組んでいましたね。こんなに子どもたちが自主的に創り上げる周年行事はなかなかないですね！

宮木 会の企画や飾りつけ、招待状や広報活動、そして、5年生が準備した下小音頭やお祝いのお菓子まで、全部子どもたちでアイデアを出し合ってやり遂げましたからね。大人(先生)の出番をほとんどとられてしまいました(笑)

一杉 こちらが知らないうちに、職員室をノックして、「校長先生、これやってもいいですか！」って直談判をしに行く子どもたちもいましたからね。予想を上回る、勢いとその行動力に、びっくりです(笑)

宮木 あと忘れてはいけないのが、1月の「地域ウィンタースペシャルイベント」ですね。私も参加しましたが、大盛り上がりでしたね！

一杉 あれは「コロナ禍で薄れてしまっている地域の繋がりを取り戻したい！」という思いで、6年生の子どもたちが、PTA のみなさんや地域の方たちと協力して企画したものです。イベント後のふり返りでは、子どもたちは「大成功だった！」と口にしながらも、しっかりと改善点も見つけていました。あの向上心こそが、この下末吉小学校のよさに繋がっているのだと思います。

宮木 今年の見学会スローガンは「未来に繋ごう下小のバトン」ですが、高学年が態度で下小のよさを示し、他学年の子たちがその姿を見てバトンを引き継いでいっていますね。1年生なんて、4月から給食や掃除の仕方を教えてもらったり、一緒に遊んだりして過ごしてきた6年生が卒業したらさみしがりますね。

一杉 先日、6年生の子どもたちが卒業式に向けて話し合っていました。スローガンは「6年間の集大成!!! ~感謝を伝え、バトンを繋げる卒業式~」になったそうです。最高学年6年生が、どのようなバトンを、どのように下級生に繋いでいくのか、しっかりと見届けようと思います。

宮木 私たちもそのスローガンの達成を目指して、しっかり支えていきましょう！

2人 みんなでがんばろう！えい、えい、おー！！



絵 江口校長